ビリーブ

BELIEVE

2019 冬号 VOL.67

特集 アレルギーセンター開設のお知らせ

川田優也「泡と光のずれが噛み合いビッグバンを始める。」・制作年/2008　・素材/色紙、紙
〈エイブルアート・カンパニー所属　URL:http://www.ableartcom.jp〉

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔67　消化器外科部長 山之口 賢

- 食だより「ほうれん草ときのこの豚しゃぶみぞれ和え」／お薬ミニ知識「お薬の〝使用期限〟を管理しましょう」
- 『がんサポートチーム』からのお知らせ／〝かかりつけ医〟をもちましょう
- 「風疹」

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報が保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります

日本医療機能評価機構 認定第 JC885 号
人間ドック・健診施設機能評価

■発行／大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30　平成31年1月発行　第67号

アレルギーセンター開設のお知らせ

当院は平成30年6月1日、大阪府が定めた「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院」の1つに選ばれました。これを機に、院内に「アレルギーセンター」を開設しました。現代におけるアレルギー疾患について、また、当センターでの役割や取り組みを紹介します。

▼アレルギーセンター勉強会

アレルギーセンター長
副院長 兼 小児科主任部長
住本 真一
SHINICHI SUMIMOTO

昭和60年京都大学医学部卒業。同年小児科入局、京都大学医学部附属病院小児科研修医を経て、昭和61年財団法人住友病院小児科に勤務。平成元年京都大学大学院医学研究科博士課程。平成5年より大阪赤十字病院小児科に勤務。平成16年当院小児科部副部長、平成24年当院小児科部長、平成28年当院副院長に就任。平成30年アレルギーセンター長、平成31年当院小児科主任部長に就任。医学博士、京都大学医学部臨床教授、日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会（小児科）専門医・指導医、日本小児科学会代議員、日本アレルギー学会代議員、日本小児アレルギー学会評議員、大阪小児科医会理事。

① アレルギー疾患の増加

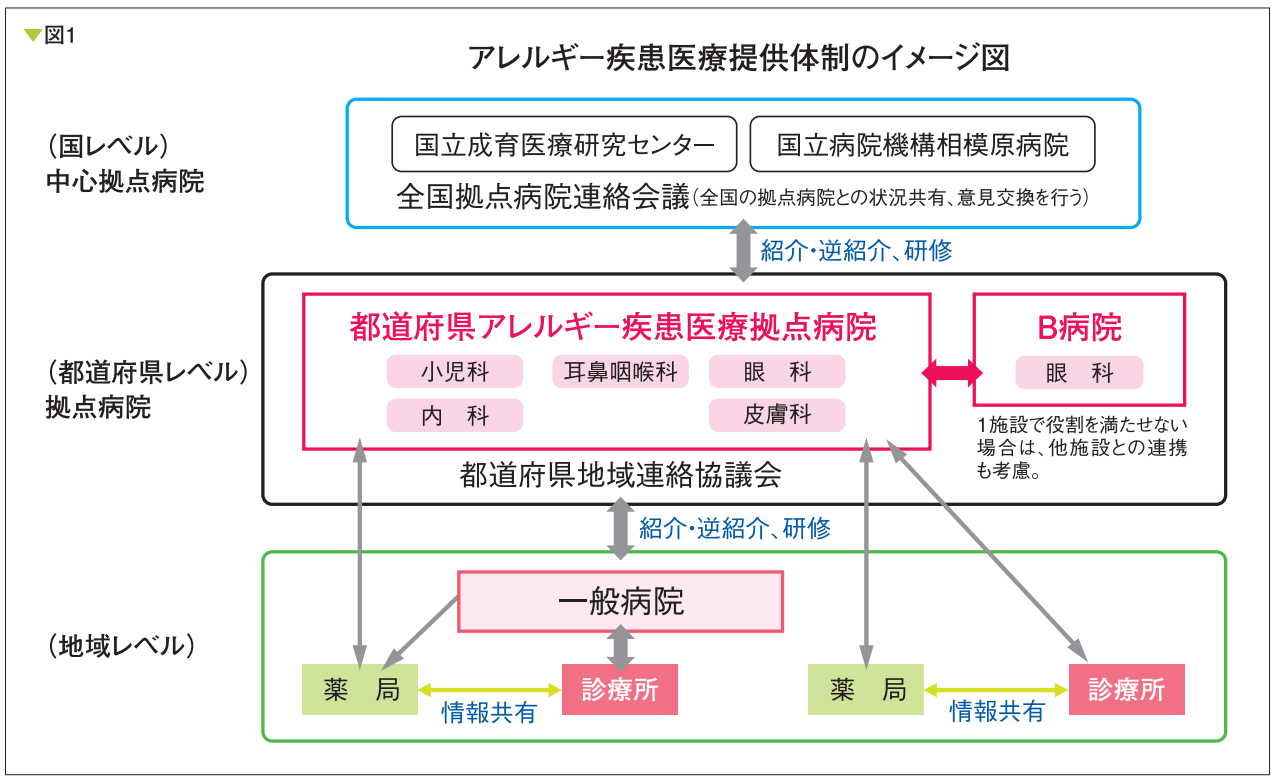
日本人のライフスタイルの欧米化とともにアレルギー疾患が増加しているといわれています。われわれ人類の免疫は、細菌や寄生虫などの外敵に対して働くのが通常ですが、最近では、ダニやホコリ、スギ、ヒノキなどの花粉、卵や牛乳などの食物といった日常ありふれた物質に過剰な反応を起こすケースが増えています。その理由については、衛生仮説や二重抗原曝露仮説などがささやかれていますが、現在まだ不明です。

現在、アレルギー疾患は、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症の6つが、代表的疾患とされています。国民の2人に1人が、これらアレルギー疾患のいずれかにかかっており、今やアレルギー疾患は、日本の国民病といわれるほどに増加してきています。

② 「アレルギー疾患対策基本法」の制定

アレルギー疾患は、命にかかわるほどの重症例は少ないものの、われわれの生活面で直接関係することが多い疾患です。また、若年者に発症することが多いため、学校や仕事場での生活の質（QOL）が低下する事例が多いのも特徴です。小児患者では、学校や保育園などでの給食によるアナフィラキシー（急性で重篤な多臓器のアレルギー反応）の報告が増え、社会問題となってきました。ですが、このような状況に対し、医療側の提供体制は貧弱で、十分な対応ができていませんでした。例えば、アトピー性皮膚炎の治療として奨められているステロイド軟膏の説明や塗り方の指導が不十分なため、民間療法に頼らざるを得ない患者さんが増えたり、食物アレルギーを恐れるあまりに、母親が子どもにタンパク質を与えず、栄養障害をきたしたりする事例が見られました。

▼図1

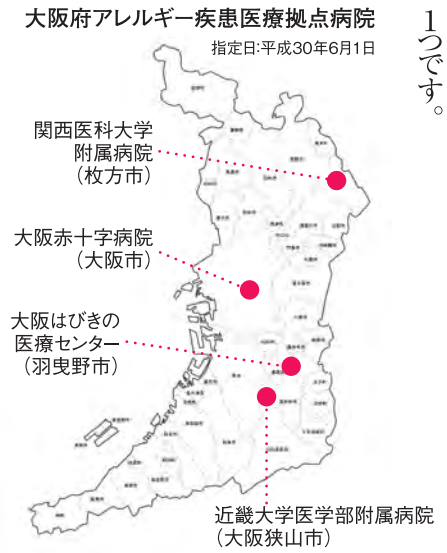


③ 「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院」の選定

そこで、平成26年に「アレルギー疾患対策基本法」が制定され、国を挙げてアレルギー疾患対策を行うことが定められました。具体的には、①生活環境の改善、②診療の均てん化、③情報入手・支援体制、④総合的な研究の推進と普及・発展、の4つです。この法律に基づき平成29年厚生労働省健康局長は、全国都道府県に医療体制整備（図1）を通知しました。

都道府県拠点病院は、アレルギー疾患医療の中心的な病院で、各都道府県で1～2カ所ずつ選定されることとなりました。大阪府では平成30年6月

1日に、4カ所の病院が選定され、当院はその1つです。



4 「アレルギー疾患医療拠点病院」の役割

アレルギー疾患医療拠点病院としての役割は次の5つです。

1 診療
重症・難治性アレルギー疾患に対し、複数診療科が連携し、診断、治療、管理を行う。

2 情報提供
①患者さん・ご家族・地域の皆さまに対し、アレルギー疾患に関する適切な情報を提供する。
②都道府県協議会が企画する患者さん・ご家族向けの講習会や、地域の皆さま向けの啓発活動など、主体的に取り組む。

3 人材育成
①医療従事者の知識・技能の向上に関する研修への積極的関与。
②保健師、栄養士、児童福祉施設など、職員に対する講習への積極的関与。

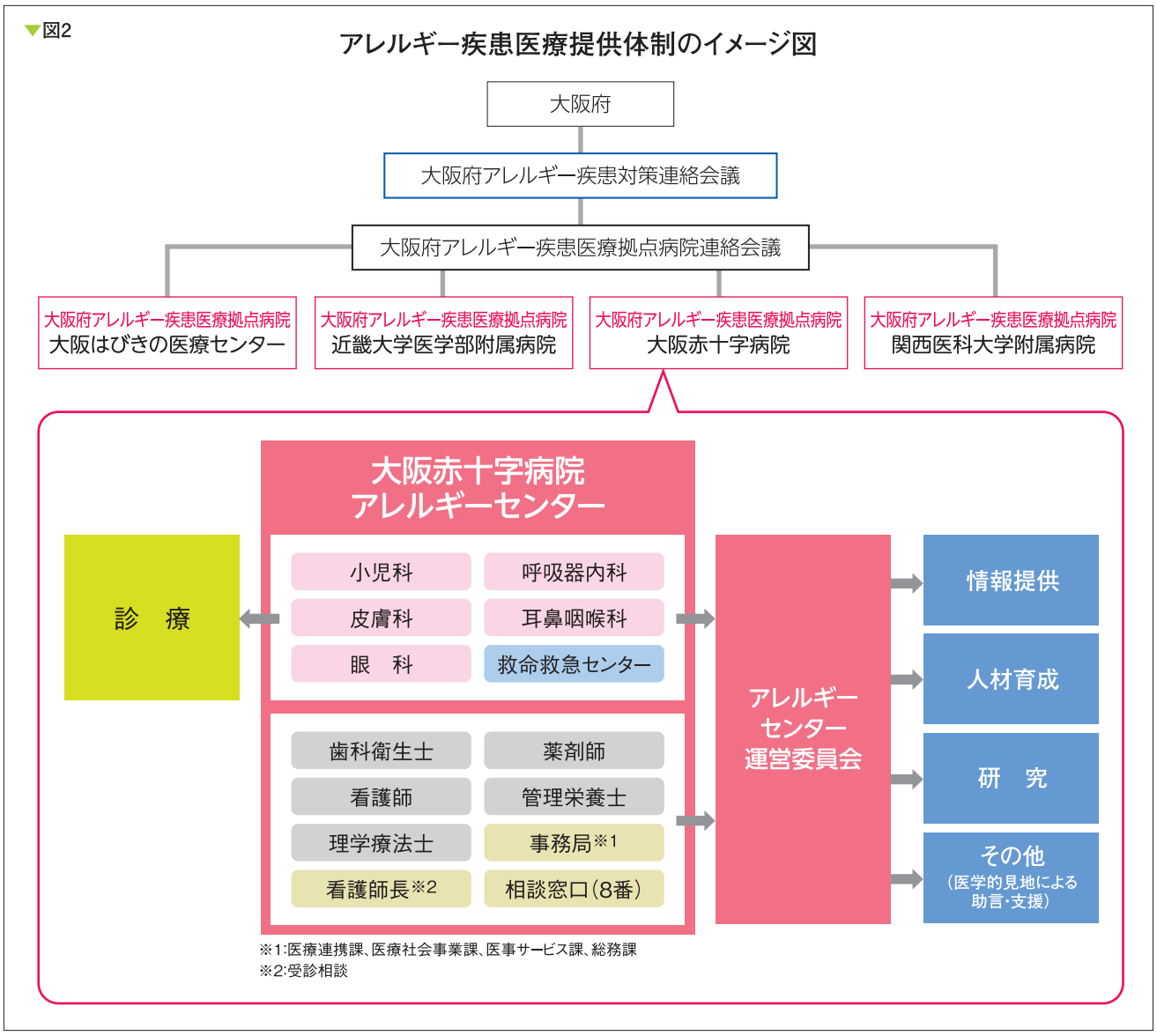
4 研究
①都道府県におけるアレルギー疾患の実情を継続的に把握するための調査分析を行う。
②国が行う研究などに協力する。

5 医学的見地からの助言・支援
学校・福祉施設、市町村への医学的見地からの助言および支援を行う。

5 「アレルギーセンター」の設置

当院は、従来からアレルギー疾患診療を小児科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科などで行っており、その取り組みや実績が評価され、今回、「アレルギー疾患医療拠点病院」に選ばれました。この選定を機に、診療科横断的に患者さんを診療できる「アレルギーセンター」を開設しました。当センターは、6つの診療科と8つのサポートする部署で構成されており（図2）、連携・協力しながら診療にあたります。また、運営委員会を介して、診療以外の役割業務も始めています。

▼図2



6 「アレルギーセンター」の実際

今回当院で開設した「アレルギーセンター」は、新たな診療科や診療場所ができたわけではありません。従来から行われていた各科の診療の連携をより密にしながら、弱いところを補強し、強いところを伸ばす形で、患者さんの診療にあたっていきます。現在、関係部署内でのすり合わせのため、内部勉強会などを始めています。

実際の受診・診療は従来どおりです。まずは、かかりつけ医の先生からの紹介担当科で受診していただき、必要があれば関係する科で診療を行います。「アレルギーセンター」宛の紹介状をご持参の場合は、中学生までは小児科へ、高校生以上は皮膚科あるいは呼吸器内科で受診していただきます。なお、「アレルギー疾患の疑い」でご紹介いただいた場合でも、アレルギー診療に適さない場合は、かかりつけ医の先生やその他の先生へ、ご紹介させていただくこともありますが、ご了承ください。

7 診療以外の当院の役割

「アレルギー疾患医療拠点病院」としての役割は先述のとおりですが、診療以外に、情報提供、人材育成、研究、その他（図2）を行う予定です。具体的には、①アレルギーセンター運営会議（1回／3カ月）、②院内勉強会（1回／2カ月）、③院外勉強会（数回／年）、④市民公開講座（1回／年：春）、⑤大阪府の依頼への対応、⑥ホームページ作成、⑦その他、です。

今年度の一般の方を対象とした市民公開講座は、平成31年3月21日（祝）に、「家庭でのアレルギーの予防・対応（仮）」について、開催する予定です。ぜひ、ご参加ください。詳しくは、当院ホームページで案内しています。

アレルギーに関するご相談など、お気軽にお問い合わせください。
相談窓口：本館2階 8番窓口

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔 67

SATOSHI YAMANOKUCHI

楽しみのひとつは自分で計画を立てる家族旅行

革新的な技術の登場に立ち合える仕事。その技術で、患者さんを救うかけがけのない外科医を育てていきたい。

消化器外科部長 山之口 賢

手術は腹腔鏡からロボットへ。知識・技術の進化は患者さんのために。

座学の勉強より実習がやりたくて、先輩に白衣を借りて解剖実習にもぐり込んだというのは、大学に入ってすぐの頃。「文字を読むのが苦手で、絵や写真のある図鑑を見ることや実験が好きでした。」という山之口医師は、中学時にはパソコン・マイコンの登場で機械好きになり、進路は工学部か医学部かで迷うなか、医学部に進む。外科医になると大阪、滋賀など病院を転々としながら、消化器外科の知識と技術を吸収してきた。

「外科医はひとつの病院ですべてができるようになるわけではないため、数年単位で異動することが多いです。外科医になったときは開腹手術が主流で、5年、10年後には腹腔鏡手術へ技術が革新されていきました。なかでも一番のカルチャーショックだったのは、抗がん剤の登場です。がんの治療は手術しかなく、投薬の効果は認められていませんでした。今は普通に使う抗がん剤ですが、当時はまだ海外でしか使えず、論文からも効果があるとわかっているのに使えない。そんなジレンマがありましたが、認可されて半年間でこんなに変わるものかと、その効果に驚きました。腹腔鏡から次はロボットになり、常に新しいものを求めることが、患者さんのためになっていきます。新たなことが始まる、その節目節目の場に立ち合うことができたのは良かったと思いますね。」

部長として、外科医として、目標にしていること。

山之口医師は、消化器外科部長に就任してから3つの目標・課題に取り組んでいる。1つ目は最先端の医療の提供。「消化器外科の病気は、まだまだ未知のことがあります。情報を知り、その技術をマスターしていくことで患者さんを助けることができます。」

2つ目は回復が難しい高齢者の手術。「今は80代の患者さんでも手術を行う時代。高齢になると体力がなくなり回復力が弱くなるため、感染症の危険もあります。手術から回復までスムーズに進むよう、力を注いでいきたいですね。」

そして3つ目、目下の課題は外科医のなり手を増やすこと。「外科医を目指す人は少なく、このままでは患者さんが増えても治療が成り立っていきません。大変な仕事ですが、消化器外科医はかけがえのない存在。患者さんを救うやりがいを知ってもらい、ひとりでも多くの人に目指してもらいたいです。」

大阪赤十字病院の同期4人での飲み会。気の合った仲間との心休まるひとときです。（右端が山之口医師）

山之口医師自身がさまざまな環境で刺激を受けてきたように、これから医師を目指す人にもそんな機会が待っていることを伝えたい。新しい知識、技術の出合い、人との出会いで次のステージが開いていく、そこに進む医師たちの登場を期待したい。

11月27日宮崎県生まれ。京都大学医学部卒業後、大阪の住友病院をはじめ、滋賀・奈良の病院で外科医として活躍。その後京都大学大学院に戻り、研究生活に入る。
平成15年より神戸逓信病院（現神戸平成病院）、奈良、兵庫の病院を経て、平成25年に当院に赴任。平成30年に第三消化器外科部長、平成31年に消化器外科部長に就任した。

看護師レポート 67 MOEKO TANOUE

1月11日福岡県生まれ。関西医療大学保健看護学部を卒業し、当院に就職。現在外科病棟で看護にあたり、2年目を迎えた。

どんな現場でも対応できる力をつけて、世界で活躍できる看護師になりたい。

●看護師 田上 萌子

私が担当するのは、外科病棟の看護です。2年目になりますが、まだまだ知識も経験も少ないので、先輩の指導を受けながら、仕事に慣れようとしているところです。

看護師になったのは、「資格を活かす仕事があれば、どこでも生きていけるよ」と両親によく言われていたため、進学の際、看護師の資格が取れる大学を選びました。大学で看護の勉強を始めて1年、2年は大変でした。「もうできない」と思うようになり、でもせっかく2年勉強したのだから少し休憩してみようと、カナダの語学大学に医療英語を学びに行きました。現地では自分の意見を活発に話すことや、わからないことはすぐに解決していくなど、日本とは異なる学び方が新鮮で、とても楽しかったです。日本では英語の勉強ができなかったのに、カナダでは英語以外禁止の生活だったこともあり、英語で困るようなことはなく、現地で病院にかかったときにも、学んだ英語を活かすことができました。看護ではまだ自信が持てず、何か得意なことをと思っていたので、英語ができるようになったことは自信になりました。

休みの日によく出かけるのはスーパー銭湯です。お風呂に入って岩盤浴をして、またお風呂に入って、ひたすらのんびり休みを満喫しています。

この先の目標は、看護のすべてをマスターして大学時代から希望している国際医療救援部に入ることと、海外で仕事ができる看護師になることです。今は外科の現場でしか経験がなく、新しいことに対応していくのがやっとの状態ですが、目標に向かって、さまざまな現場で知識や経験を重ね、どこでも臨機応変に対応することができる看護師になりたいです。

カナダでの大学最終日に撮影した、思い出の一枚。（右端が田上さん）

食だより

栄養管理課　管理栄養士　福井 侑子

ほうれん草ときのこの豚しゃぶみぞれ和え

今回は、ほうれん草を使ったレシピを紹介します。冬が旬のほうれん草は、栄養価が高く甘みがあって味も良質です。寒い環境下では凍らないように水分の吸収を抑え、糖濃度を高くして身を守ろうとするため、甘く味わい深いほうれん草へと育ちます。

ほうれん草には鉄分やβカロテンが多く含まれています。鉄分は、血液を作る材料となります。鉄分を摂ることで、貧血の予防につながります。βカロテンには抗菌作用があり風邪の予防につながります。また、βカロテンの一部がビタミンAになり、髪の毛や目の健康、皮膚や粘膜の健康の維持につながります。

ほうれん草は、葉が肉厚で葉脈が左右対称のものを選びましょう。ほうれん草の根元が赤いものは甘みが強いです。

●栄養成分(1人分)／
エネルギー:372kcal、
たんぱく質:17.5g、
脂質:29.2g、
炭水化物:10.7g

〈材料〉(2人分)

	しめじ	1パック(100g)
	大根	1/5本(200g)
	ほうれん草	1パック(200g)
	豚肉(しゃぶしゃぶ用)	150g
A	醤油	大さじ1
A	ごま油	大さじ2
A	酢	大さじ1/2

作り方

1. しめじは石づきを切り落として小房に分ける。
2. 皮をむいた大根はすりおろし、水気を切っておく。
3. 鍋にたっぷりの湯を沸かし、塩少量(分量外)を加え、ほうれん草を茎から入れてさっとゆでる。冷水で冷まし、水気をしぼって5cmの長さに切る。
4. 同じ湯でしめじをさっとゆで、ざるにあげて冷ます。
5. 続けてお湯がフツフツとする程度の火加減で豚肉をゆで、ざるにあげて冷ます。
6. ボウルに②、③、④、⑤を入れてざっくりと混ぜ、器に盛り、Aを混ぜてかける。

お薬ミニ知識

薬剤部 薬剤師　小林 早紀子

お薬の〝使用期限〟を管理しましょう

家に余っている飲み薬や目薬、塗り薬などを保管していませんか？　食べ物にも『消費期限』があるのと同様に、お薬にも『使用期限』が存在します。今回はお薬の『使用期限』についてお話ししたいと思います。

医薬品の〝使用期限〟とは

医薬品の『使用期限』とは、適切な保存条件の下において、未開封で品質が保持される期限のことをいいます。そのため、一度開封されたものは、記載されている使用期限まで品質が保証されない場合があります。お薬も湿気や温度、光などの影響を受けて徐々に劣化・変質していき、使用期限を過ぎたものは目的とする効果が期待できないだけでなく、体に有害な物質になってしまうことがあります。

■OTC医薬品(ドラッグストアなどで購入できる一般用医薬品)

ドラッグストアなどで購入できるOTC医薬品(一般用医薬品)は、基本的に外箱に使用期限が記載されています。記載がない場合、未開封であれば購入から3年が使用期限の目安となります。

■病院から処方される医療用医薬品

病院から処方される医療用医薬品は、薬袋に入れられて手渡され、使用期限の記載がないものが多いと思います。医療用医薬品は、医師が患者さんのそのときの体調や症状に合わせて処方したもので、頓服薬などを除いて基本的に処方された日から処方された日数分までが使用期限となります。処方どおり内服・使用できず余ってしまったお薬を、別の機会に自分の判断で内服・使用することは危険なため、避けてください。

開封後のOTC医薬品や医療用医薬品の中で、頓服薬は長期間保管することもあるかと思います。自宅での保管環境を考慮すると、錠剤やカプセル剤・坐薬・軟膏剤などは半年から1年程度、粉薬など薬局で分包されたものは3カ月から半年程度を使用期限の目安にしてください。水薬は細菌が繁殖する恐れがあるため、残ったものは処分してください。目薬も同様の理由で開封後1カ月が目安となります。しかし、お薬によっては使用期限が短いものもあり、保管状況によっては期限内でも劣化・変質してしまうことがありますので、詳しくはお薬を受け取った薬局や購入したドラッグストアで薬剤師に確認するようにしてください。

安全にお薬を使用していただくために、こまめに保管されているお薬の期限を確認することをお勧めします。

『がんサポートチーム』からのお知らせ vol.38

そろそろ〝人生会議〟をしてみませんか

緩和ケア科部 医師 岩城 隆二

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

昨年11月30日に厚生労働省から、望む医療やケアを最期まで受けられるように、家族や主治医と繰り返し話し合っておく取り組みについての愛称を〝人生会議〟とすると発表がありました。

その内容は、今までの人生において、いろいろな問題に対し、それぞれ十分に検討し自分らしい選択や決断をしてこられたように、病気になり病状が進行してつらくなってきたときにも、自分が望む医療やケアを受けられるよう、予め信頼できる人と相談し決めておくというものです。

人によっては、『とことん治療を』という方もいれば、『治療効果と副作用を考えて自分にあった治療を選択する』という方も、また『治療はせずに自然のままを受け入れる』といった考えの方もおられます。医療やケアに対しての価値観は人それぞれで、たとえ近親者であっても異なる価値観を持っていることが多くあります。そのため、自分の望む医療やケアを受けられるように、予めご家族と相談しておく必要があります。そして、その結果を医療者にも伝え、意識を共有することが重要です。

また、療養場所についても重要な議題となります。積極的な治療が困難となってきたとき、『ずっと家で』と思う方もいますし、『身の回りのことができなくなったら入院したい』と思う方もおられます。そういう場合の入院先として、緩和ケア病棟も選択肢にあがってくるでしょう。

※当院緩和ケア病棟の詳細は、「びりーぶ秋号（vol.66）」に掲載。

ぎりぎりまで〝人生会議〟をしておらず、選択や決断を悩まれている方は多くおられます。「初めてのことなので…」と戸惑われる方もいます。実際、多くの方々にとっては初めてのことばかりです。そんなときには、ぜひ私たち「がんサポートチーム」に相談してください。最終的な選択や決断は、患者さんとそのご家族などに行っていただくのですが、その相談過程で私たちがサポートできることがたくさんあります。

外来では「がん相談支援センター」や「緩和ケア外来」、入院中には「がんサポートチーム」がそれぞれ対応いたします。「こんなこと相談してもいいだろうか」、「病気には関係ないかも」と、不安に思われていることでも結構です。そういったことが、病気や症状に関連していることも多くあります。

私たち「がんサポートチーム」は、皆さまの〝人生会議〟のお手伝いをさせていただきたいと思っています。お気軽にお声がけください。

登録医紹介

〝かかりつけ医〟をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる〝かかりつけ医〟をもちましょう。

かかりつけ医
日ごろの健康管理
専門的な治療が必要なら当院へ紹介

紹介 →
← 逆紹介

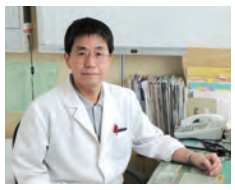
大阪赤十字病院
高度医療・専門医療
症状が安定したら再び「かかりつけ医」へ

医療法人医修会（いりょうほうじんいしゅうかい） 荒井医院（あらいいいん）

- 院　長／荒井 隆
- 診療科／内科
- 住　所／東大阪市金岡1−17−7
- 電　話／06−6721−1920
- 往　診／有
- 訪問診療／有
- 診療時間

外　来	月	火	水	木	金	土
午前（ 9:00〜12:00）	○	○	○	／	○	○
午後（17:00〜19:30）	○	○	○	／	○	／

※木曜、土曜午後、日曜、祝日は休診


荒井院長

特長 当院は現在、一般内科診療を行っています。風邪や胃腸炎などの急性疾患から高血圧、糖尿病、喘息、膠原病など慢性疾患に至るまで幅広く対応し、特に頭痛、認知症を含めた脳神経疾患を得意分野としています。また、生活習慣病対策の一環として禁煙外来を行っています。必要に応じて大阪赤十字病院をはじめ、地域基幹病院専門医受診のかけ橋の役割を担っています。昨今の高齢化社会に対応すべく、来院困難な方には、往診、訪問診療も随時行っています。患者さんとのコミュニケーションを大切に丁寧な診療を常に心がけています。

地域の皆さまへ 先々代、産科をしていた祖父の時代から70年以上長きにわたりこの地で診療させていただいています。当院で出産あるいは出生された患者さんが少なからずおられます。その歴史を重く受け止め、これからも可能な限り地域医療に貢献していきたいと考えています。

医療法人（いりょうほうじん）みゆき会（かい） よつ葉（ば）クリニック

- 院　長／前田 巨人
- 診療科／内科・リハビリテーション科
- 住　所／大阪市東成区大今里3−14−23
- 電　話／06−6976−0048
- 往　診／有　● 訪問診療／有
- 診療時間

外　来	月	火	水	木	金	土
午前（ 9:00〜12:00）	○	○	○	○	○	○
午後（17:00〜19:30）	○	○	／	○	○	／

※水曜午後、土曜午後、日曜、祝日は休診

前田院長（前列中央）とスタッフ

特長 「患者さん」「医師」「スタッフ」「連携病院」が一体となり、地域の皆さまに必要とされる医療サービスの提供に努めています。“かかりつけ医”として求められる医療機能の充実に向けて全般的な内科診療に加え、レーザー光源搭載の最新の胃カメラ検査、有資格者による通院リハビリ、在宅医療への対応などに力を注いでいます。当院は診療所としては多機能で規模が比較的大きく、総勢約30名のスタッフが力を合わせ、これらの医療サービスの提供のために、日々、チーム医療に励んでいます。

地域の皆さまへ 当院は、大阪メトロ「今里駅」7番出口すぐ横、いわゆる“駅ちか”と利便性が良く、地域の皆さまに「身近に」「安心して」「気兼ねなく」受診できるクリニックであることが望まれています。このため、かかりつけ医として求められる医療の提供に、「迅速で」「適格な」「暖かみのある」サービスが加わるように、スタッフ一同、協力し合っています。大阪赤十字病院とは多くの連携を図り、今後もより一層、充実した医療連携に努めていきたいと考えています。

風疹

新生児・未熟児科部　医師 竹川 麻衣

近年、風疹が流行っていることをご存知ですか？
ニュースで取り上げられることもあるのでご存知の方も多いかもしれません。
今回は、風疹についてお話します。

麻疹（はしか）も近年流行しています。麻疹も予防できる病気です。合わせて予防接種を受けましょう。

▲風疹予防啓発ポスター

風疹が流行？

風疹は、風疹ウイルスによって起こる感染症で、熱が出て全身に発疹が広がり、首のリンパ節が腫れたり目が充血したりしますが、症状があまり出ない場合もあります。唾液のしぶきなどを介して人にうつる病気で、感染力はインフルエンザの2～5倍ほどあるといわれています。

昔は子どもの頃にかかることが多い病気でしたが、予防接種の普及に伴い風疹の流行は一旦終息に向かっていました。しかし、平成24年～平成25年に大規模な流行があり、平成30年にも11月の時点で全国で2,000人を超えるなど、前年の20倍以上の患者数となっています（表1）。大阪府でも80人以上の報告例がありました。

風疹の症状

表1

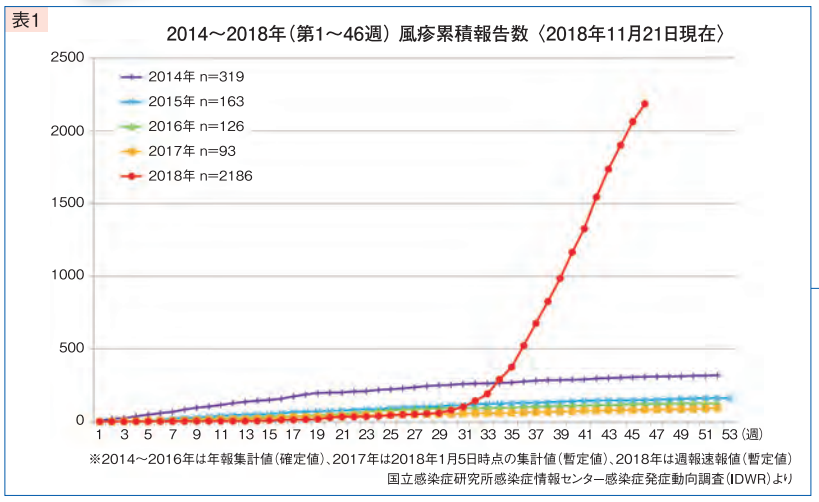
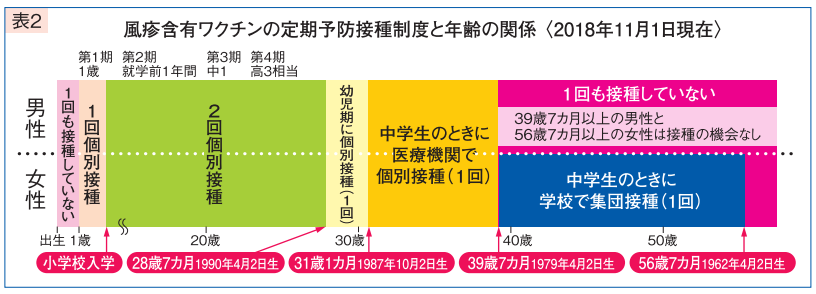


表2



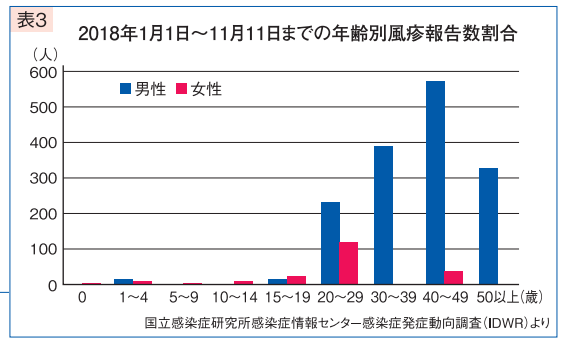
なぜ、近年再び風疹の患者数が増えているのでしょうか？

それは、風疹の免疫を充分に持っていない人がある一定数いること、海外で風疹に感染した人が日本で発症し、免疫のない人たちを介して風疹が流行してしまうことが原因です。風疹は予防接種を2回受けることで予防できる病気です。平成18年4月から、1歳時と小学校就学前の計2回の予防接種が定期接種となりましたが、昔は1回しか接種していない、また女性しか接種していない時期がありました（表2）。

特に昭和54年4月2日～平成7年4月1日生まれの男女は接種率が低く、昭和54年4月1日以前生まれの男性は、子どもの頃に接種機会がありませんでした。

つまり、30～50代の男性は風疹の予防接種を1回も受けておらず、抗体を持っていない人が多くいます。近年の流行では、30～50代の男性が患者さんの大多数を占めています（表3）。

表3



風疹が流行すると何が困るのでしょうか？

妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、生まれつきの難聴・心臓病・白内障・発達の遅れなど、障害のある赤ちゃんが生まれる可能性があります（先天性風疹症候群）。平成24年～平成25年の流行時には45人の先天性風疹症候群が確認されました。このうち11人が心臓病などで1歳過ぎまでに亡くなっています。平成30年は11月時点で先天性風疹症候群の発生報告はありませんが、風疹の患者さんが増えればそれに伴い先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれる可能性も高くなります。先天性風疹症候群の根本的な治療法はありません。女性が妊娠中に風疹にかからないようにすることが、ただひとつの予防策なのです。

しかし、妊娠適齢期の女性が予防接種を受けるだけでは先天性風疹症候群を予防することはできません。なぜなら、予防接種を受けてもうまく抗体ができない人がいるため、周りに風疹の人がいるとうつってしまうかもしれないからです。また、妊娠後に予防接種を受けることはできないので、抗体がないとわかっていても出産まで抗体がないままでいなければいけません。

風疹の感染経路としては、家族からの感染や職場での感染が多くみられます。風疹にかかったご主人や職場の同僚から妊婦さんにうつってしまい、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれるということが十分起こりうるのです。妊婦さんと赤ちゃんを守るためには、周りの風疹に免疫のない大人が予防接種を受けて免疫をつけ、風疹にかからないようにする必要があります。これから妊娠を考える女性だけでなく男性も含めて、成人で風疹にかかったことのない人や、予防接種を受けたことがない人、または不明な人は、この機会にぜひ風疹の予防接種を受けましょう。

▼かかったことがある人や予防接種を1回受けた人が接種しても、免疫が強くなるだけで特に問題はありません。

ご相談は居住地域の保健所へ

大阪府では、平成26年度から先天性風疹症候群対策事業（風疹抗体検査・風疹ワクチン等予防接種費用補助）として、風疹の免疫の有無を確認するための抗体検査を行っています。

対象
- 妊娠を希望する女性
- 妊婦の同居家族

費用 無料

→ 抗体価が低ければワクチン接種の補助を受けることができます。

自治体ごとに風疹対策の補助の有無や補助の額などのあり方が異なるため、抗体検査を希望される方は、居住地域の保健所にご相談ください。

Topics Box ニュース & イベント

News 『健診センター』からのお知らせ 人間ドックを閉鎖します

誠に勝手ながら、平成31年3月をもちまして、人間ドックを閉鎖いたします。今まで当院健診センターをご利用いただきました皆さまにおかれましては、近隣施設にて引き続き、ドック健診を受けて健康管理をされることをお勧めします。ご不便をおかけしますが、ご理解、ご寛容のほどお願いします。永年、当院人間ドックをご利用いただきありがとうございました。

Event クリスマスコンサートを開催しました

12月15日(土)、クリスマスコンサートを開催しました。

今回は三部構成で、第一部では病理診断科部の小西臨床検査技師と原田臨床検査技師によるオーボエの演奏、第二部ではサンバーグの皆さまによるクラリネット、チューバ、パーカッションの演奏、そして第三部では相愛OG讃歌隊の皆さまに合唱やピアノ・ベルの演奏をご披露いただきました。普段耳にすることが少ない楽器の音色や合唱を聴かれた皆さまからは、クリスマスを感じることができてよかったとのお声をいただきました。

第一部:オーボエ演奏

第二部:サンバーグの皆さまによる演奏

第三部:相愛OG讃歌隊の皆さまによる合唱

次回のスプリングコンサートは、3月に開催を予定しています。

詳細はホームページや院内のポスターでご案内しますので、ぜひご来場ください。

http://www.osaka-med.jrc.or.jp/

Event 『海外たすけあい募金』にご協力ありがとうございました

当院では12月1日～25日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額59,289円もの心温まるご寄付をいただきました。募金にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。今後とも赤十字活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。

海外たすけあい とは

海外の紛争、災害、病気で苦しむ人々を支援することを目的に、昭和58年2月から始まった『海外たすけあい募金』は今年で36回目を迎えます。日本赤十字社の国際活動の多くが、このキャンペーンの寄付で実施されています。

集められた寄付金は、例えば海外で地震、洪水、干ばつなどの災害が起きたときに、被災国の赤十字社からの要請に基づいて現地の赤十字社に、国際赤十字の枠組みを通して資金が送られます。現地では、国際赤十字の調整のもと、食料や緊急救援物資などの購入や、地元に根差した現地赤十字職員やボランティアが物資の配布や救援活動を行います。

また、日本から日本赤十字社の職員を派遣して活動することもあります。

Event キャロリングを開催しました

12月21日(金)夕刻、恒例の「キャロリング」を開催しました。

キャンドルを持った大阪赤十字看護専門学校の看護学生と当院の看護師の聖歌隊が、聖歌を歌いながら病棟を回りました。

やわらかなろうそくの灯りに包まれた病棟には、「入院中の患者さんにやすらぎとなぐさめを」との気持ちが込められた美しい聖歌が響きました。

最後には正面玄関ホールに聖歌隊が美しいアーチを描いて列を作り、素晴らしい歌声が披露されました。

News 『脳神経内科』へ科名変更しました

平成30年12月1日付で当院『神経内科』は、『脳神経内科』へ科名変更しました。これは日本神経学会で決定され、厚生労働省にも承認されたことによるものです。神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に至る幅広い神経系の病気を診療していますが、神経科(精神神経科)と紛らわしいことや、脳卒中やパーキンソン病、頭痛、てんかんなど脳の病気の専門家としての一般認識が依然として高くないことが、科名変更への後押しとなりました。

当院ではSCUを運営していますが、これからは脳神経外科と脳神経内科が共同して脳卒中診療にあたります。脳神経内科の診療内容は神経内科時代となんら変更はありませんので、ご安心ください。これからも脳神経内科(脳内)をどうぞよろしくお願いします。

●平成30年12月1日付　神経内科 → 脳神経内科

人事異動情報 (平成30年10月1日～平成31年1月4日付)

採用 〈10月1日付〉●岡本　仁(形成外科部・副部長) ●勝嶌　浩紀(病理診断科部・医師) ●芦原 隆仁(産婦人科部・医師) ●宗 万紀子(産婦人科部・専攻医) 〈12月1日付〉●勝島 將夫(リウマチ・膠原病内科部・常勤嘱託医師) ●波床 朋信(救急科部・非常勤嘱託医師) ●加藤 朋子(救急科部・非常勤嘱託医師) 〈12月12日付〉●芝本 恵(循環器内科部・非常勤嘱託医師) 〈12月16日付〉●畑 昭宇(皮膚科部・専攻医) 〈1月1日付〉●園部 誠(呼吸器外科部・主任部長) ●尾北 賢治(救急科部・医師) ●中平 真衣(耳鼻咽喉科・頭頸部外科部・医師) ●森野 数哉(眼科部・専攻医) 〈1月4日付〉●島田 貴信(腫瘍内科部・副部長)

退職 〈11月30日付〉●齋藤 林太郎(リウマチ・膠原病内科部・常勤嘱託医師) 〈12月26日付〉●杉田 亮(小児科部・非常勤嘱託医師) 〈12月31日付〉●岡田 佳与(皮膚科部・医師)

編集後記

平成31年が始まりました。ここのところ平成最後の…という言葉をよく耳にしますが、今年の5月に元号が変わりますね。その影響か、なんだかいつもよりも新年を迎えた実感がわいています。何かと変化の多い1年になりそうですが、皆さまにとって素敵な1年になりますように。

本年も大阪赤十字病院と本誌「びり～ぶ」をどうぞよろしくお願いいたします。 (Y.N)

病院のご案内

■**受付時間(月～金)** 〈診療開始は午前8:45からです〉
初診／月曜日～金曜日　8:30～11:30　再診／月曜日～金曜日　8:00～11:45

■**休診日**　土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日

■**診察券**　診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。

■**ご面会** 〈病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください〉
平日／14:00～19:00　休診日／10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)／14:00～19:00

■**保険証等**　保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は敷地内全面禁煙です

当院は、敷地内全面禁煙を実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。

大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30　平成31年1月発行

■お問い合わせ
TEL:06−6774−5111(代表)
大阪赤十字病院 http://www.osaka-med.jrc.or.jp/
赤十字全般 http://www.jrc.or.jp/

PRINTED WITH SOY INK